

出典:『fu-fa vol.41』2011年1月14日号 p2-5

「新春特別対談 未来への羅針盤～信じる力が不可能を可能にする～」

※掲載にあたっては、発行元・株式会社フジスタッフ社の了解を得て、掲載しております。

新春
特別対談

株式会社 フジスタッフ 代表取締役会長
増山 律子 Ritsuko Masuyama

1942年栃木県生まれ。85年に富士総合サービス株式会社(現、株式会社フジスタッフ)設立。同社取締役副社長、代表取締役社長を経て現職。経営理念は「人にもっともらいたいと思うことを、人にもしなさい。」。

Special Guest

学校法人 作新学院 副理事長
アートギャラリー “Galerie du Temps” 代表
畑 恵さん Kei Hata

1962年東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒。お茶の水女子大学大学院後期博士課程修了。学術博士。84年にNHK入局。89年よりフリーランスのニュースキャスターとして活動。92年、EC(現EU)の招聘を機にパリ留学。95～2001年参議院議員。現在は、作新学院副理事長として教育活動に取り組むかわら、アートギャラリー「ギャラリー・デュ・タン」にて文化支援活動を行う。

未来への羅針盤

～信じる力が不可能を可能にする～

あけましておめでとうございます。

新年を迎え、皆さまは新たな想いでスタートを切ったことでしょうか。

2011年はどのようなプランを思い描いていらっしゃるでしょうか？

昨秋、『未来への羅針盤～世界に貢献できる自律的な日本人をつくる20の法則～』を出版された畑恵さんをゲストにお招きし、

フジスタッフ代表取締役会長・増山律子と新春対談を行いました。

増山 一昨年からリーマン・ショックがきっかけとなり、派遣就労が批判の矢面に立たされ、派遣スタッフの皆さんはお仕事や将来について心配に思うこともあったと思います。そんな中、畑さんの著書『未来への羅針盤』を拝読し、私は勇気をいただきました。ぜひ皆さんにも畑さんのメッセージをお届けしたいと思い、本日お越しいただきました。

畑 大変光栄です。よろしくお願ひいたします。

増山 畑さんは『未来への羅針盤』の中で、人が生きる上で大切な20の法則をお書きになっていますが、私自身も「これは大切にしなければ」と思っていることばかりでした。執筆のきっかけを教えてくださいませんか？

畑 私はこれまでニュースキャスターや国会議員といった仕事を通じ社会と関わってきましたが、今ほど世界が危機に瀕し、“人間力”が問われている時代はないと痛感しています。特に現在は、御社創業の地・栃木県宇都宮市で創立125年を迎えます「作新学院」の副理事長として、幼稚園児から大学生まで約6500名の子供たちの教育に携わっていますので、子供たちの未来が心配でたまりません。

未来を切り拓ける人づくりのため、自分にできることは何かと考えた結果、生きて行く上で“道標”となるような本を作れたらと思い、筆を執りました。



増山 「今知らず、後知るべし」という言葉がありますが、子供たちは後々この本の意味を知ることになると思いますよ。日々の生活の中で折にふれて、まさに羅針盤になると思います。

この世に一つとして無用なものはない。すべては存在すべき位置に置かれたとき「有用」となる。

～有用の法則 『未来への羅針盤』より～

増山 畑さんはNHKのキャスターとして活躍なさった後、パリへ留学されましたね。帰国後に議員になられ、その後も議員立法に取り組む準備として、仕事や家庭と両立しながら大学院で博士号も取得。現在は教育や文化支援活動をされています。これまでの活動すべてが日本の「国づくり、人づくり」につながって、一つの線上を歩んでいらっしゃるように思いますが、挑戦する心はどこから湧いてくるのでしょうか？

畑 実は学生時代の私には、「世のため人のため」という意識が希薄でした。NHK入局当時も、「どうしたら自分に誠実に生きられるか。自分を本当に活かす道は何か？」と考えるのに精一杯で、世の中によって“生かされ、活かされている自分”という視点はあまりなかったように思います。

増山 社会に対する考え方が変わったのは、いつ頃だったのですか？

畑 パリで暮らした日々です。今でも“人間としての自分はパリで生まれた”と思っています。当時の生活は貧しいながらも、心の底から



美しい！素晴らしい！と感動できるものばかりに囲まれ、個人的には幸福の頂点といえる状況でした。でもだからこそ、自分に決定的に欠けていた何かに気づくことができたのです。それは「人は誰かから必要とされて、初めて幸せになれる」ということでした。人から求められてこそ、自分を活かすことができる実感したのです。パリは本当に離れがたく一晩中泣き明かしましたが、日本に戻ることを決意し、仕事のあてもなく帰国したところ政界入り被打診され、これも天の啓示と思い挑戦しました。

増山 「必要とされる人間になる」というのは生きていく上で一番大切なことですね。

畑 世のため人のために生きるということとは、決して自分を犠牲にすることではない。自分を活かして幸せになりたいと願うことと、より良い社会を築き誰かを幸せにすることはイコールであり、表裏一体のものであることを忘れてはならないと思います。

多様性とは、
強靱で豊かな未来を生む母である。

～多様性の法則 『未来への羅針盤』より～

増山 先日、作新学院の塀に描かれた、大きな絵を拝見しました。素晴らしい教育をされているなど感動したのですが、あれはどういう絵なのですか？

畑 県道工事に伴い、学院の一番目立つ箇所が280メートルに亘り、鉄板の防護壁で覆われてしまいました。ひどく見苦しくて当初は頭を抱えましたが、ならばここを大きなキャンバスと捉え直して作新の子供たち全員で絵を描こうと思い立ち、「エコ」をテーマにデザイン画を募集しました。



幼・小・中・高校それぞれから寄せられた原画をもとに教員がパソコンでリライトし、それを工業系の高校生たちが授業の一環でペイントし仕上げてくださいました。

増山 子供たちの感性は、本当に素晴らしいですね。

畑 作新学院には、年齢も専門性も異なる様々な子供たちや教職員が集っていますので、一声かけると大概のことはみんな学院の中でできてしまうんです。6500名の子供たちには、6500通りの個性・能力・夢があることを実感し、その大切さや力の大きさを日々教えられています。

増山 畑さんご自身は、どのような学生時代を過ごされたのですか？

畑 高校時代は、図書館で一人本を読みながら昼食をとっているような、どちらかと言えばネクラな子でした。特に女子生徒が、食事もトイレも終始仲良しグループで行動しているのにはなじみませんでした。私は「これは嫌い」とか「これはどうしても許せない」という感情も大切な感動の一つですから、否定すべきではないと思っています。周囲の顔色を見ながら「何でも好き」と言うような良い子には、むしろなっはいけないと思っています。もちろん、自分の意志や感性を貫くからには相応の苦難や責任も伴いますが。

増山 「自分の意志で自らの行動を決定し、その行動に責任をとること」を畑さんは著書の中で「自律」という言葉で表現されていますね。

畑 現代の日本人に一番必要とされ、最も欠落している点が、この「自律」ということだと思います。ですから本のサブタイトルにも掲げました。一人ひとりの日本人が自分の意志を持って行動せず、世間やマスコミの風潮に流されてばかりいるから、政治も経済も外交もこの国のすべてがかつてない危機に陥っています。ブランドや偏差値、収入など、既成の価値観や数字の多寡に振り回されて生きる人間や社会に、真の幸福は訪れません。周囲との軋轢や背負うべき責任の重さを恐れず、「私はこれが好き! これが大切! 」と感じる自分の心にいかに誠実に生きられるか。本当の幸せを得られるか否かは、そこにかかっていると思います。

※「自律の法則」

自分の意志で自らの行動を決定し、その行動に責任をとれる者のみが、未来を切り拓くことができる。

試練は、そこから逃げようとする者には
「壁」にすぎないが、乗り越えようとする者には
「師」となり成長を与える。

～試練の法則 『未来への羅針盤』より～

増山 現在、就職氷河期が続いており、学生は大変な思いで就職活動をしていると思います。畑さんの時代はいかがでしたか？



畑 私が就職を迎えた1984年はバブル直前の好景気であったにも関わらず、男女格差は大きく女子への求人ほとんどありませんでした。同じ人間であるにもかかわらず女性というだけで、挑戦の機会すら与えられないというあまりの不条理に、自室に引きこもり布団をかぶって悶々とする日々が続きました。ただそうして悩みに悩み、とことんまで自分自身と向かい合ったからこそ、NHKを含めテレビ局4社のみを受験するという究極の挑戦をする覚悟ができたのだと思います。

増山 1000人中一人という難関を突破され、見事にNHKに入局された畑さんが、試験の作文に書かれた文章が印象的です。「私の願いはただ一つ、“本物”の人間として、自分の人生をまっとうしたい、それだけだ。そんなささやかな願いさえ、女性である私に対し、この国は許してくれないのだろうか」。

22歳の学生が発したとは思えないほど、迫力のある言葉ですね。

畑 就職試験は人生の中で最も辛く苦しい経験でしたが、だからこそ本当の自分を受け入れることができました。偽らない自分自身を表現できたからこそ、NHKに採用していただけたのだと思います。今は就職の大氷河期で、確かに困難は多いと思います。しかし、人生にとって試練とは決してマイナスではありません。試練があるからこそ、人は強く、優しく、大きくなれる。試練も苦労もなしに成長することなんてありえないと思います。

増山 人生山あり谷あり。ピンチはチャンスという言葉もありますものね。

畑 辛く苦しいのは、人生を下っているのではなく上っている証拠。上り坂は苦しいものです。ただ、上った先には必ずや素晴らしい景色が

待っています。ですから、今辛いと感じている人も、前進だけはやめないでください。途中で休んでもいい、大切なのは諦めないこと。そして、いつかの日か坂を上りきった時、自分に対する確かな信頼、「自信」が生まれます。本当に満足のいく人生を送るためには、本当の自分と向き合う勇気を持ち、自分を信じるのが不可欠だと思います。

増山 「これで間違いない人生だった」なんて最後の瞬間になるまで分からない。畑さんは著書の中で、「信じる力は、不可能を可能にし、時としてこの世に奇跡をもたらします」と書いていらっしゃいますが、信じて歩むときには、困難や試練は気にならないもの。派遣スタッフの皆さんには、周りからどう思われようとも、「自分がこれだ!」と思う道を信じて、強く雄雄しく、歩んでいって欲しいと思います。夢と希望を忘れずに、そして試練を恐れずに。一人ひとりが自分の「羅針盤」を心の中に持ちながら、毎日を過ごして欲しいと願っています。2011年という新しい年が、ますます輝く年でありますように。畑さん、本日はありがとうございました。



「未来への羅針盤」
～世界に貢献できる
自律的な日本人をつくる
20の法則～
畑 恵 / 中央公論新社
/ ¥1,365 (税込)

fu-fa

VOL. 41

2011
January

Main contents

New Year Special 1

新春対談「未来への羅針盤」
スペシャルゲスト フジスタッフ会長
畑 恵さん × 増山 律子

New Year Special 2

漢字一文字で書く
2011年 私の目標

Mental Column

自信がUPする! 目標の階段

Valentine Recipe

森永の人気お菓子でつくる
バレンタインレシピ

